

日程：2025年8月5日(火) 雨 一時 曇り

山城：栗駒山(酢川岳) 1,626m (奥羽山脈)

メンバー：金子治雄(81 歳)、島田弘康(78 歳)、豊田紳二(75 歳) & 久子(年齢非公表) 計4名



豊田、島田先輩 & 金子先輩、栗駒山頂上にて

二月の稲門山の会総会・新年会の後、金子さんと島田さんと喫茶店で雑談中に「夏合宿」の提案があり、三人が登っていない栗駒山に決める。

島田さんに須川高原温泉の宿泊を手配して貰う。

須川高原温泉に集合。



須川高原温泉で鋭気を養う

出発時は小雨、久子だけ雨具上下で完全武装。



余裕、余裕



完全武装の久子

ウグイスの鳴く名残ヶ原の木道を進む。

豊田は植物に疎い。他の三人は小さな白い花の蘭や青色のリンドウの名前を確認している。



名残ヶ原の湿原



シャクナゲや這松の樹林帯

雨が強くなり樹林帯で小休止、雨具を着る。萎える気力を奮い立たせ、励まし合いながら出発。

花は終わっているがイワカガミやシャクナゲが見られる。

コケモモの実のほんのりとした甘味を楽しむ。

栗駒山と笹森山の分岐にある産沼付近で雨に加えて雷鳴も遠くに轟くようになる。

背の低い這松の樹林帯に行く。

栗駒山頂上に着き、万歳三唱に続き三人で「早稲田の栄光」斉唱。



島田、久子 & 金子、栗駒山頂上にて

当初、伝馬尾根を通過して秣岳経由の下山を予定していた。
時間的には余裕があるが、雨脚が更に強くなり雷も近づいてきているので来た道を引き返すことにする。
頂上から少し下った樹林帯で昼食。

相変わらず雷鳴が轟き、雨が強く、登山道には水が流れるようになる。



沢状になった登山道

雨具のズボンを着ていない下半身はずぶ濡れ。東京の猛暑に慣れた体には気持ちが良いくらい。

登りに渡渉した二つの沢の増水が気になる。

着いてみると案の定、増水で流れもかなり急になっている。

一番深いところで水は膝上まであり、途中で豊田がバランスを崩したが何とか持ちこたえて無事通過。

続く金子さんがバランスを崩し、腰上まで水に浸かる。



猿も木から落ちる

自然観察路の案内地図を見ると、苦勞して渡渉した川の名前は「三途の川」とのこと。

コースタイム：

須川高原温泉 6:40 - 自然観察路分岐 7:03/7:08 - 苔花平 7:25 - 休憩 8:30/8:36 - 産沼
9:03 - 休憩 9:31/9:37 - 栗駒山頂上 10:22/10:31 - 休憩 10:42/10:50 - 産沼
11:36/11:47 - 休憩 12:45/12:47 - 休憩 13:07/13:10 - 自然観察路分岐 13:30/13:57 - 須
川高原温泉 14:25

(記：豊田紳二)